

290
46

労働者教育資料第七
英國に於ける成人教育
校調会

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50^{6m} 1 2 3 4 5

始



393
758

勞働者教育資料
No. 7

英國に於ける成人教育

協
調
會

393-758

凡 例

協 会 寄 贈 本

- 一、英國が近時世界に卒先して、成人教育の發達に盡し、大人學校組合、労働者教育協會等、大規模の教育運動を始として、大學擴張運動、消費組合教育運動、労働大學乃至教育的セツトルメント、其他各種の施設盛に行はれ、教育の機會を均霑し、**社會的識見**を進め、豊かなる同情と理解の態度に依て人生生活を樂しみ、篤き奉仕と責任の精神の下に、社會連帶の實を擧げんとし、常に堅實なる人格の無限の發展を庶幾するに於て、現時我國に勃興せんとしつつある成人労働者教育運動に志ある者の學ぶべき點頗る大なるものあるを思ふ。
- 一、本編は英國に於ける成人教育運動の發達及現狀を紹介せんが爲めに、本會囑託宮島清の編纂したのである。
- 一、本編の編纂に方り涉獵したる文献の主要なるものは左の如くである。

大正 16. 10. 15
寄贈

Cole, G.D., Trade Unionism and Education. London: W.F.A. Year Book, 1918.

- Fallows, J.A., and Wilkins, H.T., English Educational Endowments. London : W.E.A.
 Freeman, Arnold, Education through Settlements. London : Allen & Unwin.
 Gleason, A.H., What the Workers Want. New York : Harcourt, 1920.
 Goldstone, J.G., Labour and Continued Education. Manchester : University Press, 1920
 Greenwood, Arthur, The Education of Citizen. London : W.E.A., 1920.
 Hay, W. F., Education and the Working Class. Liverpool : District Council for
 Independent Working Class Education, 1920.
 Higher Education for Men and Women. London : National Adult School Union, 1920
 Sadler, M.E. Continuation Schools in England and Elsewhere. Manchester : University
 Press, 1908.
 Watson, Encyclopaedia and Dictionary of Education. London : Sir Issac Pitman &
 Sons, 1922.
 Adult Education, The Classics in London : W.A.A.E. Bul. XI, Feb. 1922.
 Adult Education in Wales. London : W.A.A.E. Bul. VII, 1921.
 Adult Education and the Trade Unionist. London : Caledonian Press, 1920.
 Adult Education for Women, The Development of. London : H.M. Stationary Office, 1922.

290
46

- Adult School Work. London : National Adult School Union, 1919.
 Adult Schools, Their Aims and Methods and how to establish them. London : National Adult School Union.
 Cooperators, Organization of Week-end Schools for. Manchester : Co-operative Printing Society, 1918.
 Haldane, Viscount, Education and Democracy. Manchester : Co-operative Union, 1920.
 Mansbridge, Albert, A Survey of Working Class Educational Movements in England and Scotland.
 The British Institute of Adult Education. London, 1921.
 The Development of Adult Education in Rural Areas. London : Education Committee, 1922
 The Workers, Educational Association : Its Aims and Ideals. London : A.M. Morris Press.
 W.E.A. Education Yeark Boo, The. London : W.E.A. 1918.

大正十五年十月

協調會教務課

目次

第一章 成人教育の目的……………一
第二章 成人教育の原則……………五
第三章 成人教育の發達——一八〇〇年より一八五〇年まで……………一二
第四章 最近に於ける成人教育の概況——一八五〇年以後……………二一
第五章 農村に於ける成人教育……………六三

英國に於ける成人教育

第一章 成人教育の目的



英國成人教育委員會は云つてゐる、

「十九世紀に於て、成人男女の要求に適したる、より高等なる教育組織を作り上げが爲めに、不斷の努力が重ねられ來つたと云ふことは、決して果敢なき興味や一時の流行の結果ではなく、社會の人々がその一生を通じて自らを満足せしむるに足る何物かを擧げようとする要求に基いたことである。」

は遽かに云ふ譯には行かない。人の性格にも依れば、境遇にも依ること、その求むるところは各個各様である。ところが此個人的要求の外に成人教育を發達せしむるに到つた別様な動機が存在する。それは主として社會的要求である。即ち、知識を普及

すればする程社會の進歩は有力に助成せらるゝと云ふ信念である。されば、成人教育の目的とするところは、個人の知識を發達させると云ふことも左ることながら、更に賢明なる市民を養成し、更により良き社會的秩序を成就する爲めの基礎を築かんとすることに在るのである。

成人教育委員會はその第一回の報告に於て非職業的大學の兩面の動機を説いて、

「男女の成人をして自己の教育を要望せしめる動機の一面は、個人をして完全なる發達を遂げしめんとするに在る。即ち、知識を求め、遺憾なく自己を表現し、自己の知的、美的並に精神的要求を満足せしめ、更により充實した生活を生み出さんとするところに根柢する。又他の一面には社會的動機がある。假に勞働者に就て云へば、彼等をして自己を教育することの必要を感じしめる主なる原因は、社會的方面に在る。教育の寄與する力は彼等をして人間社會の共同目的を理解せしめ、而して之を解決せしめるものである。随つて多くの場合に於て、勞働者が教育を受けんとする

努力は特に政治的、社會的乃至産業的組織の一員としてその責任を盡すことを得しめる様な方面に向けらるゝ」と云ふてゐる。

是に注意すべきは、兒童や青年の教育の必要なことは云ふ迄もないが、それが如何に發展しやうとも、成人教育の必要は一毫も減すべき理由がないと云ふことである。

この點に就て成人教育委員會はその第一回の報告に於て述べて曰く、

「成人の興味を感じる様な問題は若い人々にとつては無意味なことである。……教育は繼續的な過程で、被教育者の年齢と經驗に依つてその形式と方法を異にするべきであるが、然し人間の永久的な要求を示すものでなければならぬ。随つて兒童や青年の教育は如何に發達して居やうとも、成人教育の施設は永久に必要なものであらねばならぬ。」

尙ほ成人教育委員會議長バリオール氏は同委員會の最終の報告に於て或種の提案を試みて居るが、委員會の結論は此提案に基いたものである。その提案中の一二を摘記

すれば、

「成人教育は二三の特別な人の爲にする贅澤なものと考へられてはならぬ。又成人となつて世の中に出た僅の期間の必要に應ずる爲のものゝ考へられてはならぬ。成人教育は國家として永久に必要なもの、公民的素養とは分つ可からざるもの、随つて世間一般に行はるべきものであり、終生行はるべきものでなければならぬ。」

「成人教育を受けると云ふことは、全社會の利益の爲めに、全社會を通じて一様に且つ組織的に擴張せらるべきもので、成人教育を受けると云ふことは個人の重大なる義務とせらるべきである。随つて成人教育機關に對してはあらゆる奨励と援助とを與ふべく、斯くて夫々の成人教育機關の事業を發展せしめ、國民教育系統中に適當なる位置を發見するに至らしめなければならぬ。」

是に該委員會が成人教育の目的並にその必要に就て結論したところを要約すれば、

(イ)、成人教育は永久的なる必要に基く。

- (ロ)、兒童や青年の教育は何程發達しやうとも、成人教育の要求を満足することが出來ない、故に永久に獨立したる成人教育の必要を認める。
- (ハ)、成人教育は成人が知識を求め、その個人自身を發達せしめる爲めに、而して更に賢明なる社會の公民を養成し、更に完全なる社會的秩序を建設せんが爲めに必要である。

随つて社會は成人教育の機會の整備と發達に十分なる努力を拂ふべきである。と云ふことになる。

第二章 成人教育の原則

一般の人々が考へて居るとは異つて、成人は存外教育の可能力を有する者であり、亦實際然る可き理由がある。それは

- 一、廣い意味に於ての教育は、産業生活を營むことに依て、而して又共同の目的を

有する人々と相交はることに依て繼續して行はれつゝあること、

二、その生活しつゝある世間の經驗は、中等學校等では得られない様な豊富にして深刻な教育的背景を有すること、

三、人に由て境遇も異り性格にも多大の相違はあらうけれども、兎に角人間精神の發達、隨て教育の可能性は現在の最長期の教育の終に臨んで更に尙繼續すること、

である。斯くて成人教育は永久に可能であり、且つ必要なるものである。その人の教育に缺點があるから、乃至少年時に廢學して教育を中絶したから必要だと云ふのではなく、小學校や中等學校の教育では實生活に當つての必要を充たすことが出來ず、成人に成つて始めて得らるる經驗に基く教育に由つてよくその必要を充たすことが出來るからである。

成人教育は他の教育とは違ふと云ふのは、若年の者は全然教師の管理の下に學習す

るのであるが、成人は自ら學習の責任を負ひ、又若い者が試る研究は或直接の目的に支配され勝であるが、成人の學習の動機は之と異なるところがある。加之成人に於ては人生の經驗が豊富なものがあるので、その學習に對し了解するところ亦深からざるを得ない。

成人教育の場合には他の場合と餘程事情が違ふところがある。經驗に徴するに、非職業的成人教育は生徒相互の協力の下に行はれなければならず、生徒自らがその學ぶことを決定してかゝると云ふ風である。換言すれば、成人教育は自治的なものでなければならぬ。そこで、教師は生徒の希望し歓迎する人でなければならず、その學習する課程は教師と生徒とが十分熟議を遂げた未定められなければならぬ。集會する日時、場所その他委細のことは生徒全體の要求に依て決せなければならぬ。

されば互に忌憚なく論じ合ひ各自の經驗を交換することが亦成人學級に於ける主要

なる仕事の一である。蓋し斯くして始めて社會共通の素養が出来上り、各自の見解は互に是正せらるゝことが出来るからである。

次に教授の自由而して論究の自由、は成人教育に於ける根本要件とせらるゝところである。蓋し既に述べた通り、成人教育の背後には強烈なる社會的動機がある。成人生徒は複雑にして紛争多き社會の諸問題を解決するに足るだけの更に多くの知識を求めんとしつゝあるからである。尤危険矯激なる思想が横行しつゝある時節柄、或地方では成人學級で社會上の紛争問題に關して自由な論究を敢てすることは良くあるまいと考へ、或は又これを禁じて居る處もある。然ながら、委員會の報告が指摘する様に「政治的社會的乃至産業的利害に關する事柄の大部分は多分に争議的性質を帶ぶる者である。成人學級に於て斯る紛争問題に關係ある事項を除外するどころか、社會生活乃至社會組織上の問題に關しては人夫々その觀るところを異にし、その間に多大の徑庭がある」と云ふことは、成人教育に於て社會的紛争事項に對し十分な研究と論議を盡さし

むべき有力なる理由となる」のである。斯くて成人教育に於ては社會上の争議問題に關する研究を除外する譯には行かないものと信せらるゝ。若しこれを忌避し除外するやうなことがあると、成人教育に俟つところ多き社會教育の中心生命を失はしめる様になる。社會政策上の難問題は成人學級に於て十分に學ばれ、相互の尊敬と雅量の雰圍氣の中で自由に論議研究せらる可きである。

成人教育に於て、就て學ぶ生徒の一團又は特殊な主張を有する教師の爲めにその學級に一種厭ふ可き空氣を作り、好ましからぬ色彩を帯びる様なことがあるかも知れぬと云ふ憂がないでもない。斯る風の教育は努めて避けなければならぬ。此の點に於て成人教育委員會は「教師や生徒の抱懐しつゝある特殊な意見は教育ともつかず宣傳ともつかぬものである。成人教育をして眞に教育的のものたらしめるものは、教師の豊富なる學殖と立派な人格、而て、生徒の眞面目なことゝ根氣よく繼續して學ぶことに由る」と云ふて居るが、學習の動機は飽く迄純なものでなければならぬ。眞面目な教育

的努力こそ奨勵せらるべきである。委員會は更に述べて居る、「成人教育を眞面目に遂行することが社會に最大の利益を齎らすものである。蓋し公明な輿論が各種各様なる成人生徒をして夫れ〳〵の問題に對して仔細に考慮せしめ、各其立場に立つての意見を吐露せしめる事に由て得られ易いからである。眞理は多方面である。随つて色々異なる見地から社會上の紛争問題を研究論議することに由て、始めて妥當にして適切な眞理を得ることが出来るのである。加之吾人は教育は一種の安全瓣であると主張する者である、豊富な知識があり深い思慮分別があれば、半可通の知識や半面の見解に基づく偏見に囚はれる様な事はなくなる。……今日の社會に行はるゝ害悪は成人生徒が一方面の事項に關し餘りに深く研究しすぎることによるには非ずして、何事にも餘りに學ぶところ寡く、知るところがない爲めである。國民の福祉を脅威するものは、成人生徒が社會の事件や學問上の事柄に就て特別興味を覺へてそれを研究する事に基くものに非ずして、生徒の大多數がそれに何等の興味を感せず、それを納得の行くま

で研究しやうと思はず、市民の義務を盡す爲めに自ら學習せんとする努力がなく、社會的に組織立つた活動を起さうとする熱心がないからである」。要之公明なる動機の下に眞面目な研究を敢てせしめることは個人並に社會を幸福ならしめる第一の要件とせらるべきものである。

以上論じたところを綜括すれば、

- 一、成人教育に於ては、生徒が強い責任感を有すると云ふこと。學問をすることを望む動機及び世の中に立つて贏ち得たる經驗等が、彼等の學習に特別な了解を與へること。此點に於ては他の一般の教育とは全然その消息を異にすること。
- 二、成人學級は出來得る限りその自治に任せらるべきこと。
- 三、成人教育に於ては意見の發表論議は自由でなければならぬと云ふこと。
- 四、社會に於ける争議に關する問題は、成人教育の内容から除外されてはならぬこと。

等である。

第三章 成人教育の發達

(一八〇〇年——一八五〇年)

成人教育運動の始まつたのは十八世紀のことである。一七一一年基督教知識普及會は勸告書(サーキュラー)を發して成人教育學校を設置す可きことを説き又同じ時代ウエールズに於てメソヂストの復活運動に伴ひ非常な多數に上る成人教育施設がなされた。例へば一七三七年より一七六〇年に到る間、巡回學校の開かるゝもの三千に上つたと稱せられて居るが、當時は一般民衆の教育程度低く、宗教家は民衆が聖書をも讀むことが出來ず、神の福祉に與ふことの出來ないことを悲しんで、主として聖書を讀むことを教へたものである。斯くして成人教育運動の先驅となつた譯であるが、それが特に宗教的動機に基いて起つたものであると云ふ點は注意すべきことである。

十九世紀に入つてイングランドに成人教育運動を發達せしめるに到つた有力な動機が三つある、それは

- 一、宗教的慈惠的な考に基くもの
- 二、社會的政治的事情に基くもの
- 三、物質科學の發達に基くもの

是である。此三つの動機は互に密接な關係に立ち相互に影響し合つて居るもので、嚴格な區別の出來ないことは勿論であるが、便宜上斯くの如く分類して説明する方が解り易い。

そこで第一に宗教的慈惠的な考へに基づいて起つたものを考察するに、一七三九年ノッチンガムに成人學校が開催せられ、聖書を読み、傍ら讀み、書き、算術を教へた。當初は何等宗派的な色彩はなかつたのであるが、後になつてフレンド協會の支援を受くるに及んで、成人教育としてよりは、寧ろ特殊な宗教運動と化するに到つたので

ある。

その後凡百年を経て、一八二〇年、復多くの成人學校その他何等宗派に關係のない日曜學校が右と同じ様な目的で國內諸地方に設けられた。尤教育の發達に伴ひ、無學者の數が減少し、ために日曜學校が成人を對象とすることは漸次止んだが、成人學校の方は別様な而して獨自な意義と目的を以て永久的な施設となつて榮える様になつて來た。現任成人教育に多大な貢獻を致しつゝある英國成人學校同盟(ナショナル、アダルト、スクール、ユニオン)の如きは此成人學校の傳統を曳いたもので、特に一宗一派に偏せざる一般基督教的精神の横溢しつゝあることは注目し値するものである。

第二に物質科學の發達に基く成人教育發達の過程を観察するに、科學の發達とその産業的應用の道の弘まるに伴ひ、勞働者に科學的素養を與へて、科學的な時代の産業に適應せしめんとする目的で、茲に特殊な成人教育運動が起つた。斯くて卑近な科學上の文献や雜誌等の發刊を見るに到つたのであるが、一定の教育施設として特に注目

すべきものは、メカニック、インステテュート(工業講習所)(The Mechanic Institutes)運動である。これは現在では相當盛なものであるが、特に一八一五年—一八五〇年の間に最も隆盛を極め、或は學級を編成し、或は講演を催し、又は圖書館を附設し乃至設立すると云ふ様な状態で、その成人教育に貢獻するところ尠なからざるものがあった。

メカニック、インステテュートには二つの源流を發見する。其の一は一七八九年バ—ミンガム日曜學校の教師が集まつて日曜協會を組織した。その目的は日曜學校の授業を終つた後青少年者に單に字を書く事と算術を教へることであつた。ところが時代の要求で中々書き方や算術だけでは満足する事が出來ず、忽ち科目の數が増加せられ、機械學、液體靜力學、電氣學、氣學、天文學等の原理を教授せらるゝことゝなつた、更に特に機械學や自然科學に關する講演等が開かるゝこととなり、一七九五年には工人圖書館の開設となり、一七九六年には此日曜協會の面目を改めて

バーミンガム同胞協會となり、徹底的に右に擧げた様な事業を行ふことになり、その講演、學級的教授、圖書館等の施設は當時風を望んで英國の各地に起つた、メカニツク、インステテチュート中第一位に位すること、なつた。其の二は、ジョン、アングダーソン博士が死に臨みその遺産を贈與してグラスゴーにアングダーソン大學と稱する特別な研究機關を設立せしめた。その後一七九六年、リチャード、ガーネツトが此研究所に於ける化學、博物科の教授となり、一七九九年迄在任して盡力した結果、是に所謂メカニツク、インステテチュートの起源となつたと云はれて居る。

兎に角右の様な次第で此機關が漸次隆盛になつて來たのであるが、色々器械が不十分なところから、附近の各工場と聯絡をとり、實際に職工等と接觸する様になつたのであるが、職工等に科學的知識が全然無いのを見て、之等に無料で初歩的科學の知識を與へることとし、講義を始めたのであつたが、學級の人員は五〇人から漸

次多くなつて五〇〇人となり、幾年かに涉つて講義が續けられたのである。遂に一八二三年にはグラスゴー、メカニツク、インステテチュート云ふ名稱の下に獨立の協會となるに至つた。一八二一年にはリバープールに於て亦 "Mechanic and Apprentice Library" が設けられ、同年エチンバラに於て亦メカニツク、インステテチュートが設けられ、主として勞働者を教育する趣旨が發表せられ、その翌年圖書館が附設せらるゝこと、なつた。

更に一八二四年にはマンチエスター、メカニツク、インステテチュートが設けられ、科學の夫々の部門に應じて講義を開始したのであるが、これが英國に於けるあらゆる工業學校の源流となつたもので、英國工業學校制度發祥の施設として永久に留意せらるべきものである。倫敦メカニツク、インステテチュートの設けられたのは一八二三年で、パーベック氏が其の長となり、開設當時から非常の評判で、入學者一〇〇〇人を超へ、毎年の平均人員之に下らざるものがあつた。此インステテチュートは委

員會の管理するところで、委員の三分の二は労働者から出て居るものである。斯かる有様で、一八二四年からはメカニツク、インステチユートは社會的大勢となつて全國的に行はるゝに至つた。

要之メカニツク、インステチユートは機械手、工手と云ふ様な者に對し、その從事する仕事の如何は兎もあれ、科學上の理解を深め、素養を廣汎にして、その職とする仕事の實際に役立たせ、夫々從事する仕事に就て完全なる知識を涵養し、その技術に堪能ならしめ、更に進んで發明發見と云うことにも至らしめ、工人その人をして福祉あらしむると共に、社會的に貢献せんことを主意としたのであつた。

メカニツク、インステチユートは斯くの如く労働者の實際の要求を充たし、彼等の科學的知識の希求を満足せしめたこと云ふこと、而して此實際的な趣旨は労働者を指揮命令する階級の賞讃を博し、且これを經營する上に於て割合にデモクラチックな方法に出で、學校の經營運用に就ては労働者が參與して之を支持すると云ふ様な、極めて適

切な處置に出でたが爲めに多大の成功を收め、一八五一年にはイングランドに於てその數六一〇、生徒數一六、〇二九人と云ふ盛況に達したのであるが、此年を限界としてメカニツク、インステチユート運動は漸次その勢力を失ひ、且その性質をも變更する様になつて行つた。

十九世紀に入つてイングランドに成人教育運動を發達せしめるに到つた第三の動機として社會的、政治的方面を考へて見るに、これは主として十八世紀の産業革命や佛蘭西大革命の影響に依て生れた國會改造問題に基いてデモクラシーの運動が熾烈になり爲に一般民衆に教育を要望する思想が擡頭して來た、これが十九世紀前半の特色を爲すに至つたものである。斯くて労働組合やチャーチスト等は子弟の教育を要望すると共に一般民衆の教育の必要を唱導し、メカニツク、インステチユートの爲し遂げ得ざりし、而して今日の労働者教育協會の試みつゝある様な、人文的政治的教育を布及せしむべき事の必要を説き、斯くて様々な施設が試みらるゝことゝなつたのである。

尙之等十九世紀初頭に於けるデモクラシーの運動に促されて起つた教育促進の叫は遂に一八五六年並に一八七六年の義務教育令の發布を招來する重大な動機となつた。尤これは成人教育運動と直接關係はないにせよ、成人教育運動がこれを促進し之に基いてまた成人教育運動が助成せらるゝ様な形勢になつたことは云ふ迄もない。尙その他時代の趨勢に動かされて労働者間に既に單なる讀み、書き、算術以上に出た文化的教育に關する強烈な要求があつて、兒童に對する義務教育令發布以前に、有志團體の力である範圍迄は労働者に對する現代式の成人教育施設が試みられつゝあつたこと、労働階級のリーダーは既にメカニック、インステチュートの如き實用的な教育よりも、文化的教化的なる成人教育の必要を聲明しつゝあつたこと、並にその財力は貧しきに拘らず、労働者自身が目論見、労働者自身の實現したる教育的施設が驚くべき實力を示したることを考慮に入れて置くことが必要であり、財力——これは國家に依りてのみ與へらるゝことの出来る——の缺乏と知識——上流階級並に大學等に依てのみ與へら

る可きの——缺乏の爲めに折角醜醉しつゝありし労働者自身の教育計劃を萎縮せしめ、その順當な發達を遂げしめなかつたことは亦切に我々の注目す可きところで、若此際社會が労働者の要求を理解し、共鳴して之に財力と知力の援助を惜まなかつたならば、恐らくその發達は非常のものであつたらうと思はるゝのである。

第四章 最近の成人教育

(一八五〇年以後)

一八五〇年前後の歳は、社會的にも教育的にも、その是非は兎に角として、劃時代的な時であつたと云へる。一八四八年チャーチスト運動が失敗に終り、進んで教育を要望し乃至助成するところあらしめたデモクラチック、アイデアリズムの思想は一時その影をひそめる様になつた。且又コーン、ロー(穀物條例)廢止の結果、賃金は低下し物價は下落し、民間が經濟的に繁榮し來つた爲め、總ての階級を通じて儉安姑息に陥り、

教育問題に對しては冷淡無關心の態度を示すに至つた。加之成人教育運動の端を開き、その發達に助力し貢献しつゝあつた宗教の勢力は、ダーウインの進化論の出現と共に、頓に人氣を失ふに至り、随つてその成人教育運動も亦頓挫を來す様な事情に立到つたのである。斯くて極端に云へば、成人學校は、一八五〇年前後を境として一時消滅したと云ふて差支がないが、それと共に又新なる有志機關の勃興を招來すること、なつた、それは外でもない大學の覺醒とその活動である。

初期に於ける成人教育は上流階級並に大學の援助を得んだが爲めに知識を引出す可き源を缺き、此缺陷の爲めにその進歩は阻害せられ、あたら希望に満ちた運動も常に萎靡として振はざる状態に在つた。然るに一八四〇年ヴィクトリア女皇が獨逸のアルバート親王と結婚せられ、此皇婿の勸告に基いてケムブリッジ大學並にオクスフォード大學に欽命委員會が設けられ、その審議の結果、此古い兩大學が是に古來の頑強なる傳統を破つて中産階級の子弟をも收容することとなり、随つて様々の重大なる變

革が加へらるゝこととなり、大學が民衆と親密なる接觸を試みる端を開くこととなつたのである。

大學擴張 (University Extension) と云ふ言葉が始めて唱へられたのはオクスフォードに於ける欽命委員會に附議せられた際のことである。即ちシーヴェル氏が民衆を大學に招致すると云ふことは事情許さざるが爲めに、産業都市に大學を持ち出して、其の知識を傳へる方法として大學の資力で講筵を開くべしと説いたことに基くのである。

大學擴張講演の經過に就ては別に項を設けて説かんとするのであるが、要之此講筵の開催と云ふことは、大學がその機能を開放して校外の成人を教育するに至つた端緒として刮目に値するものである。斯くて一八七九年にはシエーフキールドに於て、一八八一年にはノッチンガムに於て、一八九二年にはリーディングに於て、成人學校が設けられたのであるが、是はその設立の主要目的たる勞働者教育と云ふ點に於ては明かに失敗して居る。それは大學の財政の關係から、極真面目な組織的な學級に對して、

その課程を切り詰めて多数の聴衆を吸引しやうとしたこと、その成人學校を經營するに當つて勞働階級の意志を閑却してその協力を求めなかつたことの爲めである。

次で現はれたものはチュートリアル、クラス(Tutorial Class)運動で、これは大學の校外教授として最興味ある施設であり、勞働階級の教育に於て多大の成功を收めたのである。此チュートリアル、クラス制度は眞面目な勞働者學生の非常に満足する處となり、勞働團體は此チュートリアル、クラスの組織經營に關して大學に對し多大の援助を與へ、文部省は補助金を下附し、或場合には地方教育當局も亦補助金を支出し、斯くて有爲な指導教師(Tutor)を配置し、學生は一學級三十人以内とし、三年間眞面目な學習を可能ならしめたのである。

此チュートリアル、クラスの成功に與つて力あるものは、一九〇三年に設立された勞働者教育協會(W、E、A—Worker's Educational Association)で、此協會の設立並に

其成功に最功勞のあつた人はアルバート、マンスブリッジ(Albert Mansbridge)である。

W、E、Aが大學と協力して第一回チュートリアル、クラスを開催したのは一九〇八年のことで、男子四十八人、女子十人を收容したのであつた。更に一九一九年より一九二〇年に至る間にW、E、Aの開設した三ヶ年制のチュートリアル、クラスの數は二百二十九、收容人員男子三千六百二十四人、女子千六百九十六人、一ヶ年制のチュートリアル、クラスの數三百二十八、收容人員男子三千八百八十八人、女子三千二百三十人と云ふ盛況を呈したのである。

次で擧ぐ可き勞働者教育機關は勞働者大學(College for Working People)で、これは一定の校舍を具へ、機關を常設せるものと然らざるものとある。此勞働者大學は十九世紀後半以後の産物であるが、之亦一八五二年の欽命委員會の決議に基く大學擴張

の餘慶を受けて出来たものには相違ないが、然しこれは主としてトレード、ユニオン並にコオペラチヴ、ソサイテイーの財政的支援に基くものである。一八四二年、シエフキールドに創められたるを端緒として、相次でロンドン、ライセスター、マンチエスター、オクスフォード、ケムブリッジ、サルフォード、ハリファックス、リバープール等に開設せられたのであるが、現にロンドン労働者大學 (London Working Mens College) ライセスターの記念大學 (Memorial College) だけが設立當初の趣旨に基く事業を行ふて居る。之等の労働者大學に於ては、教師と學生との間に極めて親密な關係が維持せられ、深き人間的にして道徳的な教育が施され、卒業後社會運動に従事するリーダーとしての素養を培ふ訓練が施され、嘗てメカニツク、インストラチユートで行はれたるよりは遙に進んだ程度に於て労働者自身が其學校の經營統理に任ずることを方針としたもので、ロンドン労働者大學の如きは一九一九年—一九二〇年の學期に大學内の諸種の學級に入學した生徒數一、四八五人と云ふ様な有様で、中々盛なもので

ある。

一八九九年、オクスフォードにラスキン大學 (Ruskin College) が設けられ、同時に五十人の労働者學生を收容した。その目的とするところは男女労働者に對し不偏不黨の教養の深い有爲なる労働運動者を養成するのが主意で、従つて人文的教育に重きをおき、經濟學、産業史、社會學、歴史、政治學と云ふ様な學科を課したのである。その學生は重に労働組合等の給費學生で、此大學を統理し經營する者は労働團體の代表者と、此趣旨、事業に同情を有する大學のチューター (Tutor) 兩三人の人々であつたが、一九一〇年以後は全然労働組合、消費者組合等の労働者團體の代表者だけが主腦となるに至つた。その前年即ち一九〇九年、本大學の目的、随つてその學科課程等に關し、大學内に議論が起り、幾多の激しい論争が重ねられた末、過激分子は袂を分つて去り、別に倫敦中央労働大學 (London Central Labour College) を設立し、

主として労働運動の宣傳者の養成に當る様になつたので、本大學は從來の傳統に歸つて、公平穩健な教育を施すことに専念するに至つたのである。

倫敦労働大學は前に述べた様に、ラスキン大學に於ける紛争の結果、之と分離して一九〇九年に創立されたもので、これは労働運動に参加せんとする者に對し宣傳者としての訓練を興へ様とする極めて左傾的なものである。現今では全國鐵道従業員組合 (National Union of Railway Men) 並にサウスウェールズ鑛夫聯合 (South Wales Miner's Federation) 兩團體の支持するところで、その學科目は經濟學、社會學、産業史、歴史、數學等である。經濟學は主としてマルキシズムを祖述し、飽くまで現在の資本主義の經濟組織を否認せんとするもので、全然社會主義に基く教育を施しつゝある。本大學を支持しつゝある人々は常に新舊の大學や W、E、A 一流の學舎的教育

を冷笑し、學生を收容するにも本大學の革命的目的を支持し祖述する決心のないものには入學を許さないと云ふ風である。斯んな風であるから、新舊大學の援助を受けず、指導教師は全部労働階級の人を以つて之れに充て、更に又官憲の補助等を受け様等と云ふ考は微塵もない。本大學の維持者の團體たるブレーブス、リーグ (Pleb's League) の機關雜誌ブレーブスに對句體の詩で歌つて居る。

我は汝より麵麩屑を貰はうとも思はなければ、

恩顧を受け様とも思はない。

汝の指導を受け様とも思はなければ、

誘惑を受け様とも思はない。

汝の教授を受け様とも思はなければ、

傳統を承け様とも思はない。

これでその態度の如何なるものたるかは略判斷がつくことと思ふ。

本大學は諸地方の中心市邑に講演を催し、又盛に通信教授を行ひ、在學期間は一年乃至二年、休暇が短かくて學期が長い。本學に在籍する者總計七、〇〇〇人乃至八、〇〇〇人(一九二二年)と註せられた。

その他勞働團體、慈善團體、宗教團體、地方教育當局等の設立統理に屬する勞働者教育機關は澤山あつて、何れも大學の卒業者を教師とし、割合に大學流の空氣を作つてその教授を行ひつゝある。その中有名なものは倫敦のモーレー、カレッジ (Morley College)、ランカシャイアのファイアクラフト (Firecraft) —これは丁抹の國民高等學校を模したものである—並にW、E、Aの非寄宿制大學、バーミンガムのウードブローク セットルメント、倫敦勞働婦人大學 (London College for Working Women) 等である。尙その外成人教育團體乃至機關として成績を挙げつゝある主要なものに就ては夫々項を分つて説かうと思ふ。

一、セットルメント (Settlement)

セットルメント (Settlement) —我邦にては隣保館等と稱しつゝあり—に二種あつて、各全國的團體を形作つて居る。それは

一、寄宿制セットルメント同盟 (Federation of Residential Settlement)

二、教育的セットルメント協會 (The Educational Settlement Association)

前者は社會事業を主とするもので、その活動の中樞として一定の定置員があり、一定の事業の遂行に盡力しつゝあるセットルメントの聯合であり、後者は主として成人教育を目的とするセットルメントの聯合で、その形式は多種多様である。セントルメントが始めて設立されたのは一九〇九年で、大多數は一九一九年以後の設立に係る様と思はれる。

セットルメントはその何れの種類に屬するものたるを問はず、共に教育を重要視することは云ふまでもない。所謂寄宿制セットルメントでもその教育事業が多大の發展

を遂げつゝあるものも二三はある様であるが、然し要するにこれは社會事業を重要なものとしつゝあることは前述の通りである。

成人教育の發達するに伴れ、その性質に於て民衆教育事業に最緊密な關係を有し、最適切な組織を備へつゝあるセツトルメントが此事業に至大な貢獻をなし得べきものであると云ふことが次第に社會の理解するところとなり、特に教育を主とする教育的セツトルメントの設立を見るに至つたのである。就中有名なものはヨークのセント、メリース、セツトルメント(一九〇九年)バーケンヘッドのビーチクロフト、セツトルメント(一九一四年)、レミントンのレミントン、セツトルメント等である。之等は成人に高等教育を施すためのセツトルメントで、夫々組織的教育計劃を有し、大學やW、E、A等と連絡が出来て居て、夫々の施設が試みられつゝある。

斯るセツトルメントは色々の團體に依て國內諸所に設けられつゝある教育的性質を帶る活動に對し、會場を提供し、集會所を與へ、大學擴張講演やW、E、A等の會場とな

つて學術の教授をなすと共に又社交の中樞となり、俱樂部となり、成人男女の精神内容を増進すべき一切の運動を舉げて助成せんと努力する。教育セツトルメントは大學擴張委員會W、E、A等の外、ブレーブス・リーグ、成人學校聯盟(Adult School Union)婦人學院(The Women's Institute)全國讀書聯盟(National Home Reading Union)等と密接な提携をなし、成人教育の隆興に盡力しつゝあるのである。

若し又地方の成人教育施設が其成人學生の要望するところと間隔がある様であれば、セツトルメントが自ら進んで講義、質問、討論をなす團體を組織して成人學生に満足を與へる。斯んな風でセツトルメントで行はるゝものは、大學擴張講演、大學チュートリアル・クラス、一ヶ年學級、講演會、討論會、郷土研究、劇協會(時には小劇場の仕事もする)、管絃樂協會、唱歌協會、手藝講習、民踊、社交會等其他である。

二、成人學校聯盟(Adult School Union)

獨自なる成人教育機關として成人學校(Adult School)があり相當古い歴史を有つ

ものである。これは蘇格蘭や威爾斯には餘り榮へないが、英蘭では非常に盛なものである。一九一四年、成人學校の數一八、〇〇〇—その中には一校で五百人からの生徒を有つものすらある—それが三〇の地方成人學校組合に分屬し、これが集つて全國成人學校聯盟を成して居る。

日曜の午前は主として男子のクラスが集會し、午後は女子が集會する。自分で建物を所有する成人學校は、一週間打通して學級や討論會、研究會等を催し續けて居る。國家の補助は受けて居ないので、その教師の俸給は僅なものである。宗教上の問題を論ずるに當ても、何れの宗門宗派にも獨立なものであるだけに、飽く迄自由な議論を闘はずを常とする。

全國成人學校聯盟は成人學校の目的とするところを述べて居る。曰く

- 一、成人男女を啓發してその生活の仕方(文化的意味に於て)を教授すること、
- 二、自由に、公明に、敬虔に、偏見なく、聖書を研究すること、

三、基督教徒全般の努力、貢獻、並に統一を完全ならしめんが爲めに、何れの宗門宗派にも屬せざる純正なる根柢を建設すること、

四、社會のあらゆる階級を集約して頼もしき盟友となし、積極的に社會に貢獻するところあらしめること、

五、公共精神、公共道徳を鼓吹し養成すること、

六、公民としての精神を解せしめること、

七、出来る限り機會均等を促進すること、

八、四海同胞の思想を助成すること、

九、成人男女をして基督の一生を解し、それに學ぶところあらしめ、各個人をして夫々基督に忠順なる様獎勵すること、

等の項目を挙げつゝあるが、近代成人學校の目的として更に洗練された項目としては

- 一、教育の價値を宣明し

二、人間奉仕の悦樂を説き

三、靈的理想の必要を高調し

成人學校に依て之を達成せんとする。

此成人學校の目的とするところ、及びその練り上げ來つた方法は共に他の類似な機關に對し嚴然たる獨自な位置を占め、特に其存在の理由を肯定せしめるものがある。成人學校に出席してその利益を享け、その經營維持に關する責任を分擔することを承知の上、之に加入する意志さへあれば、何人たるを問はず一切の成人は會員たることが出来るのである。會員同志は

一、飽く迄盟友としての空氣を作り

二、共に満足し得る眞理を共同して求めること

を本旨とする。

その指導者は自治團體としての學校それ自身で選定し、且つ便宜上會長その他の役

員を設け、他の團體に對する代表者を定める。

各成人學校は夫々自ら之を維持經營し。その他地方成人學校組合や全國成人學校聯盟に對しては其の經費を分擔する。尙成人學校に依ては自分自身の建物を有つものもあるが、多くは自治團體の學校や教會を借りて事業を行ひつゝある。

そのプログラムとしては、聖書の内容を題目として、人生問題を研究するに在る。これは會員相互に質疑應答や、批評討論をなし、協力して眞理を求めるのである。尤指導者はあるが、それもバイブル・クラスの様に説教をするものではなく、自分の研究や經驗を會員に發表して、それを主題として會員は前に述べた様な自由な研究に入るのである。尙全國成人學校聯盟で編纂した教科書もあつて、之を用ゐて行ふものもある。

一週一回以上集會する事は困難なことであるから、前に述べた様に普通日曜の午前には男子、午後は婦人が集會し、その他研究會、毎週講演、民踊、劇俱樂部、社交夜會、手藝會、園藝會等の教育的乃至娛樂的な催をする。尙ほ右に挙げた様な毎週のプログラ

ムの外、土曜講演學校、夏季學校、寄宿制大學、教育セツトルメント通信教授等の方法を講じて、盛にその會員の啓發を謀つて居る。

成人學校の特色として特に指摘すべきは

- 一、方法の自由、適切、簡單なこと
 - 二、寛大で友情に充ちた空氣の漲ること
 - 三、宗教的に通弊たる陰氣なところなく、喜悅に充ちて居ること
 - 四、會員の自治に成り、會員が夫々の部門に分れて會務に當り、自然何れかの委員會の一員となり、自ら團體生活の訓練が出來上ること
- 等である。

成人學校が全国的に提携して全國成人學校聯盟 (National Adult School Union) が出來て居ることは既に述べたところであるが、これは全國の成人學校運動の理想を洗練する機關であり、更に新しき計劃を立案し實施し、乃至全國成人學校の指導誘掖奨

勵に當る機關である。但し決して個々の成人學校を監督したり制扼しないことは最注目値するところで、我邦に見る様な中央機關とは譯が違ふ。

全國成人學校聯盟には多くの常設委員會があつて、

- 一、婦人成人學校の助言指導に當るもの
 - 二、教科書の編纂に當るもの
 - 三、教育事業、社會奉仕、等の事業を立案するもの
 - 四、世界的諒解を計るもの
 - 五、青少年に對する事業を進むるもの
 - 六、財政庶務を掌理するもの
- 等に分れて居る。

その出版物としては

1. "One and All" (機關雜誌)

- 一、A Yearbook and Dictionary (定期刊行)
 - 二、教科書
 - 三、The Fellowship Hymn Book
 - 四、The Fellowship Hymn Song
 - 五、様々な問題に關するパンフレットや教科書
- 等である。その施行する事業としては
- 一、講義
 - 二、夏季學校
 - 三、冬季學校
 - 四、外國訪問
 - 五、通信學校
 - 六、國際通信部

七、内外聯盟協議會

等を催すことである。その財政は會員及同情者の寄附並に各成人學校乃至地方組合の
 醵出金に依るものである。

三、消費者組合 (Cooperative Societies)

十九世紀の前半は労働組合や消費者組合が成人教育に對し多大の盡力を致したことは已に述べたところである。

一八五〇年前後一時その努力を緩めたものゝ、政黨政派の關係を回避しつつあつた消費者組合がその教育上の希望を捨てる筈はなく、十九世紀の後半より、その地方團體の職業的乃至人文的な教育を施す學級、通俗講演、研究會、夏季學校、週末學校等を開催して、成人や青年の教養を謀ることを忘れなかつたのである。

現に消費者組合聯盟 (Cooperative Union) の中央教育委員會は地方の教育的努力を

奨励し、地方團體の催す學級の要目を制定し、試験を執行して地方學級教授者の免狀を附與し盛に教育的施設を試みるに共にラスキン大學や倫敦勞働大學等の經營統理に參與し、W、E、Aの中央協議會にも代表者を出してその事業を分擔するに云ふ風である。尙又消費者組合聯盟の地方團體はW、E、Aの地方團體と協力して、その開催するチュートリアル、クラスに生徒を出し、更に又地方教育當局とも照應して教育的施設に盡力するに云ふ工合である。

四、勞働組合 (Trade Union)

勞働組合が亦舊來より成人教育運動に盡力し來つたことは前にも述べたところであるが、W、E、Aや大學聯盟委員會乃至ラスキン大學、倫敦勞働大學等にも加盟し、代表者を出してその事業に參加翼賛し、地方當局とも協力するに云ふ風に、その功績顯著なるものがある。

元來勞働組合は自家の統制下に非る階級に對しては、之を監視すると迄には至らず

とも、之を信用せず、随つてW、E、Aの行ふ教育を支配する學舍的な要素に對しては屢疑惑の目を向けつゝあつたのであるが、漸次W、E、Aの本來の趣旨とするところを明かにし、教師竝に生徒の思想言論の自由なることが分り、W、E、Aと協力する大學や地方當局は生徒の出席、學科の程度、教師の教授能力と云ふ様な點に干與するだけで、その根本精神に對しては何等の干渉をも試るものではないと云ふ事情を明にするに及んで、是にW、E、Aと密接なる提携を爲すに至つたのである。

ところが、一九二二年、鐵工業組合が勞働者教育勞働組合委員會 (Workers' Educational Trade Union Committee) を設け勞働組合から他の團體の施設に少數の生徒を派遣して教育するよりも、多數の組合員が日々仕事を爲ながら學問をする便宜を得る様にするに云ふことが、遙に大切なことである、と云ふことが決議されたので、その便法として

一、地方教育當局の提供する夜間學校施設を利用すること

二、労働組合自身で教育的施設を爲し多くの組合員に學習の便宜を與へること

三、W、E、Aの施設を利用すること

等の案を挙げたのであるが、遂に第三案を採つてW、E、Aと鞏固に聯合することとなり、以前よりも更に有効に、且つ物質的にも更に／＼多くW、E、Aを支持することを期しつゝある次第である。

五、基督教青年會 (Young Men's Christian Association)

基督教青年會は大戦前學術講習のプログラムを作つて、各地方支部で經營しつゝあつた學級數も相當あつたのであるが、その組織の良くないことと、他の團體との連繫を缺いたが爲めに、その教育事業は格別思はしい成績を擧げることが出來ず、その學級は教育的と云ふよりは寧ろ娛樂的な目的に役立つた様である。之に鑑み戦後基督教

青年會大學委員會を作つて、その意見に従ひ、曩に述べた様な諸團體と密接に提携して成人教育に従事することとなり、特に非職業的、文化的方面に着目し、主として此方面の題目を捉へ職業的、技術的題目は、土地の要求あるに拘らず、他の教育團體が之を行ふものがない場合だけ之を施行することとした。斯くて一九二〇年—一九二一年には幾十回の講演、學級、研究會等を經營し、特に大學の講演や學習を受けることの出來ない土地の人々に對しては通信教授を行ひ、大にその實績を擧げる様になつた。

基督教青年會の事業も一般に單なる一時の講演をするよりも、學級制や研究會組織に移りつゝある状態である。更に進んでチュートリアル、クラスと云ふ様な教育を必要とする場合には、W、E、Aとか大學擴張當局とかの事業に委嘱し、尙學級制を施行する場合には基督教青年會の中央圖書館から書籍を供給する様な仕組にして居る。又通信教授をも盛に行ひつゝある。

七、大學擴張運動 (University Extension)

大學擴張運動の由來は既に説明した通りで、國民生活に大學の影響を擴張せんとする目的の爲めに行はるゝ大學の校外活動の一切を含めての謂であつたが、その運動が漸次洗練せられ、最實績の擧る方法を探り、主として「講義、學級、並に論文作成の三課程を結合したる大學の校外教授」を指すことゝなつた。

即ちその方法を具體的に述べれば、

- 一、講義を開始する前、手引として講義の要綱を發行し、これに依りて毎週又は二週間に講義をなし、これに繼ぐに
 - 二、學級に於ける講義の間に生じた難解點を教師と生徒とで討議し、最後に
 - 三、教師より論文の題目を與へ、生徒は論文を作成してこれを提出し、教師はこれを読讀して生徒に返附し、夫々批評と指導を與へる。
- 同時に大學は巡回圖書館(出來得る限り教師が講義中生徒に紹介した本を含む)を

巡回させる。

- 四、若しその講義を主催したる地方團體の要求がある場合には、講座の濟んだ後、大學から出講した教師とは異つた教師を派遣して試験を執行し、證書を授與すると云ふ様な遣り方である

その科目は國語、文學、歴史、地理、藝術、經濟、物質科學等の範圍の題目に就いてである。試にオクスフォード大學委員會の發表した六回講義の要綱の一を擧げれば

希臘の影響

- 第一回 ヘラスとその開拓者
- 第二回 歐羅巴救済—波斯との抗争
- 第三回 ホーマー及ホーマーの詩に現はれたる國々に於ける發見
- 第四回 希臘の藝術と思想—ソクラテイス
- 第五回 希臘の建築—フィディアスとパントオン

第六回 希臘文明の近代に及ぼせる影響

であつて尙ほ各項に涉りて要目及注意すべき事項等を懇切に擧げてある。

執行機關は中央と地方とに分ち、地方を最大切なものとしてゐる。

中央機關としては、オックスフォード大學代表者會、ケムブリッジ大學シンデケート、ロンドン大學ボード等があつて、教師を任命し、地方主催の課程を認可し、試験を行ふ。之等の機關の幹部としては、大學の副總長と大學から任命された十五人乃至二十人の大學卒業業者より成り、此中央機關の經費は大學の負擔するところである。

地方機關としては文藝や科學に關する協會、コオペラチーフ・ソサイティー・セットルメント、圖書館、地方教育當局と云ふ様な地方を代表する人々より成る委員會である。成人學校の成功する与否とは一に此地方機關の良否に依るのである。尙ほ地方機關は教師の報酬、旅費等を調達し、會場を設け、學級を組織し、廣告をする等の事を分擔する。

大學の行ひ來つた此種の成人教育は相當の効果を擧げつゝあるのであるが、此組織並に財政上の點に關し英國成人教育委員會は

- 一、成人學生に對し、文化的教育を施す施設は大學の機能より見て當然の處置であつて、大學として特別な仕事と考へらるべきではない。
- 二、成人教育に對する各大學の支出は更に／＼増加せらるべきである。
- 三、大學の行ふ校外成人教育に對しては、國家も地方當局も共に更に多くの補助金を與ふべきである。
- 四、大學は成人教育を擔任する教師、講演者の數を多くし、且つ更に／＼多額の報酬を與ふべきである。

と云ふ様な提案を試み、大學に對し更に大なる期待を表明しつゝあることは注目し値することである。

八、W、E、Aとチユートリアル・クラス

最近十年間に於ける英國の成人教育の發達は目覺しいもので、大學、中央政府、地方當局の援助が急速度に増大し、其の成人教育は質に於て將た量に於て著しき進歩を遂げつゝあるのであるが、その効績の一半は實にW、E、A—労働者教育協會 (Workers Educational Association) に歸せざるを得ない。蓋しW、E、Aが労働團體と大學を握手せしめて、從來の大學擴張講演をチュートリアル・クラスに發展せしめ、爾來單なる講演的教育をクラス組織に改善する大勢を醸成し、加之成人教育事業を以て當然大學の擔當す可き職能の一部であると云ふことを、大學にも社會一般にも承認諒解せしめるの端を開き、斯くして労働者に對し高き程度の教育を與へることに非常の盡力をなしたからに外ならぬ。尙ほW、E、Aが大學と聯繫して成人教育施設を計劃するに當つて、労働者側の要求に鑑み、一、文學的、科學的並に娛樂的方面に重きをおいたこと、二、社會生活を理解せしめ、公民的教養を與へることに意を用いたること、三、労働者を教育するに當つて、労働者をして自己の所屬たる團體の社會的活動に參與し、成果を收

め得る様教育することに留意したることの三點が、W、E、Aの成人教育をして特に効果あらしめたものであると云ふことを注意しなければならぬ。

元來W、E、Aは大學擴張運動の所産であり、コオペラチヴ・ムーヴメントの産兒だと云ふて差支ない。十九世紀末に於て、大學側の人々は成人教育を爲すに當つて大學と労働團體との協力を必要とする事に着目する様になり、此趣意を提げて起つた人はロバート・マンスブリッジ (Robert Mansbridge) である。マンスブリッジの盡力に依つて一九〇三年、W、E、Aが組織せらるゝこととなり、労働組合、消費組合、成人學校、大學、地方當局、労働者クラブ、諸教育會、圖書館協會、その他社會の多種多様な團體を包容してその會員とする厯然たる團體 (一九二一年にはW、E、Aに加盟せる團體數二、八九六と註せられて居る) を爲すに至つたのであるが、W、E、Aは労働運動とか政治運動等には一切關係せず飽く迄教育に立脚し、一路その目的に精進し來つて今日の繁盛を看るに至つたものである。

W、E、Aは一九〇六年、オクスフォード大學の大學擴張當局の援助の下に試験的にチュートリアル・クラスを創めたのを端緒とし、一九〇七年、更にオクスフォード大學とW、E、Aとの聯合委員會を設けて協力的に成人教育の計劃を進める様になり、一九〇八年、九年にはケンブリッジ、ロンドン、マンチェスター諸大學亦オクスフォードに倣ひ、W、E、Aとの間に夫々聯合委員會を設け、是にチュートリアル・クラス制度は英國大學擴張運動の最主要なる方法とせらるゝに至つた。斯くして施設せられたるチュートリアル・クラスの數は

三年制チュートリアル・クラス

一九〇八年—九年	(クラス) 八	(生徒) 二三七人
一九一六年—一七年	一九九	一、九九六人
一九二〇年—二一年	二九三	六、八二〇人

と云ふ目覺しき發展振りを示すに至つたのである。

英國に於ける大學チュートリアル・クラスは殆んど全部三年制のもので、これは大學聯合委員會を通じてW、E、Aの行ふところである。尤その他有志團體の要求に由り大學で施設しつゝあるものも多少あつて是亦漸次増加し行く傾向がある。尙一年制のものもあるが、必しも皆が皆左うと云ふ譯ではないが、やがて三年制となるべき準備的のものであることが多い。一年制チュートリアル・クラスは多くはW、E、Aの援助なしに起つたものではあるが、大抵はW、E、Aのやり方を學んで居る。之亦年と共に増加し、その數に於ては三年制のものは比較にならぬ程の盛なる趨勢を示しつゝある。即ち

一九一八年—一九年	(クラス) 一四五	(生徒數) 一、一七〇人
一九一九年—二〇年	三二八	七、一一八人
一九二〇年—二一年	四六三	一二、四七四人

と云ふ有様である

W、E、Aは技術的、職業的方面の教育は他の團體に委せ、主として世間一般の希望

する文化的教育方面に力を注いで居る。斯くW、E、Aの施設する教育は非職業的ではあるが、生徒の方は始めには市民として乃至自己の所屬する労働團體の一員として、其の運動に裨益するところある様な科目を撰擇するので、何うしても社會科學が一番希望者が多い。斯くて三年制チュートリアル・クラスに於ては

第一年 經濟史

第二年 經濟學

第三年 近代社會問題並に經濟問題

と云ふ風にするものが普通になつて居たのであるが、漸次生徒の要求する學科目が變つて來て、一九一九年——二〇年に於ては

一、三年制チュートリアル・クラスに於て

經濟史 (クラス) 九七

社會學、心理學、哲學 四六

文學 四四

歴史 二五

地方政治、憲法問題等 五

音樂 五

生物學 五

希臘史 二

二、一年制チュートリアル・クラスに於ては

(クラス)

經濟史、産業史 一三七

文學 七四

政治學、心理學、哲學 五八

歴史(一般) 九

音樂 一四

佛蘭西語

自然科學

その他

八

七

二一

五六

と云ふ風になつて居る。

チユートリアル・クラスの學生は階級や職業には拘らない。要之智識を啓發し、自己を表現する能力を賦與することを目的とする。期するところは教師學生協力して大學程度の教育を完成し、社會に有爲なる一員を加へ、學生をしてその所屬する團體に有力なる貢獻をなさしめんとするに在る。

チユートリアル・クラスの生徒數は一クラス三十二人を出でない。尤二十四人以下と云ふことは好ましからぬこととせらるゝけれども、適當な生徒十八人以上あれば一つのクラスを作ることが出来ることになつて居る。

クラスは九月より四月にかけて毎週集會し、二十四回を一期とし、之を三年間繼續

するのである。一回は二時間となし、第一時間は教師の講義を聽き、第二時間は質問討論に費す。一期に一回論文を作らせ、講師は之を丁寧に閲覽採點して生徒に返却する。機會あれば講師はその論文に就て個々の生徒に批評を加へ、注意を與へる。チユートリアル・クラスは生徒の自治に委せ、その成功する否とは主として學生の覺悟如何に依るのである。

又直ちにチユートリアル・クラスを施設するに堪へざるところでは、一ケ年の準備學級を設ける。その程度はチユートリアル・クラスの様之高からざるは勿論である。

チユートリアル・クラスを施設するには、地方團體の委員會はW、E、Aと大學との聯合委員會に對し最小限五十五磅を支拂ふ。尙ほその地方で施設するに要する經費を負擔する。右の五十五磅は聯合委員會側の經費を償ふに足らないので、政府や地方當局よりの補助金が増せば、更に多くを聯合委員會に支拂ふ様になるのである。

地方委員會の收入するところは

五七

- 一、生徒よりの報酬
- 二、政府教育當局(Board of Education)よりの補助。但しこれは政府より直接聯合委員會の方へ支拂はるゝ。因にチュートリアル・クラスが正規の標準に該當すれば、政府より一ヶ年に付き四十五磅の補助が與へらるゝのである。
- 三、地方當局の補助。これは地方當局の意志に由るもので、何等確たる標準や規程はない。
- 四、時に依りて教育組合や消費者組合の教育委員會又はその他の團體よりの寄

附

右の中(二)、(三)は聯合委員會の經費となり、(一)は地方委員會の經費、(四)は準備、補充となる。地方當局は斯る施設の爲めに教室を提供し、照明の設備を與へることは普通である。

一ヶ年の準備クラスに對しても大同小異で、政府の補助金に多少の相違がある位の

ものである。

チュートリアル・クラスの特徴として擧ぐ可きは

一、デモクラチックなること、

W、E、Aのチュートリアル・クラスでは教師、講習題目、遣り方等に關しては、學生の撰擇に委せる。W、E、Aの地方支部に於ては、冬の始めに聯合委員會から、次の一年間に施設せらる可きチュートリアル・クラスの學科題目、教師等に關する計畫表を配布せられ、それから任意撰擇をして計畫するのである。

二、大學的な空氣の漲りつゝあること

極めて學究的に、討論の如き何處迄も納得の行く迄探究して止まない云ふ風で、各自偏見や依姑地に囚はるゝことなく、公明な心を以て共同して眞理を求めると云ふ調子である。随つて勞働大學一派の人からは非社會的、學究的であると云ふ様な批評を受けて居る。

尙ほ是に一ヶ年のチュートリアル・クラスに就て補足的に述べておくが、これは一九〇七年オックスフォード大學に始めて聯合委員會が出来た時、委員會は二年制チュートリアル・クラスを提唱したのであるが、政府當局は三年制のものに特別な補助を與へる様にしたので、斯る短期の制度は爲めにその發達を阻害せらるる様な形勢に逢着したのである。

斯くの如く財政的には不得策であるに拘らず、一九二一年には著しく増加し、前に述べた様に一九二〇年—一九二一年には四六三クラスが施設せらるゝに至つたのである。W、E、Aは遙以前から一ヶ年制のものに對しても多くの補助金を支出する様政府に要望し、成人教育委員會亦同様の勸告を試みつゝある。事實に於て一ヶ年制のものが増加し行くところを見ると、これが一般成人に適し、歡迎せられつゝあるものであることが分る。三年制となればこれに入る者は特定の人に限られ、一般の者を廣く收容することには向かない様に思はれる。尙一年制のものは三年制のものに比し、力量

ある教師を要せず随つてその報酬も少なくて間に合ひ、多く中等學校の教師か又は經驗に富めるチュートリアル・クラスの卒業者に指導される場合が多い。

チュートリアル・クラスに出席する學生の種別を觀察するに、大要左の如くである。

(一九一三年—一四年の調査)

年齢	三十歳乃至六十歳
	(若い者は大抵地方當局施設のテクニカル・クラスに入つて居る。)
熟練労働者、不熟練労働者	一、八七〇人
學校教師	三〇八人
書記、事務員、郵便技手	六二三人
其他	一三四人
計	三、〇三五人

チュートリアル・クラスに對する世間の批評を一括して示せば、大抵正反對な二様

の説を聴くのである。

六二

一、革命的な労働團體側の批評

チュートリアル・クラスの如き學究的な精神に始終するのは、資本家の勢力下に立つもので、労働者の教育としては與する能はざるものである。

元來資本家の庇護の下に發達し來れる大學と無産者たる労働者が協力すると云ふことは既に不自然なもので、斯る不自然な事情の下に眞の労働者教育は望まれな
い。

二、反動的にして保守的な中産階級の批評

チュートリアル・クラスに於て自由な研究を許すことは唯さへ社會革命思想にかぶれつゝある労働者の思想に更に左傾的な傾向を與ふるもので、結局無政府主義の養成に終るものである。

W、E、Aと倫敦労働者大學の事業を混同し、労働者に對し革命的思想を弘布する

ものであると考へて兎角の批難を加へて居るものが多い。

第五章 農村に於ける成人教育

農村と云ふても英國の様な工業國に於ては嚴密に定義を下すことは困難である。人口寡少な村落でも、都市に接近して居るとか、交通が至便であるとか、政治的、經濟的乃至文化的の諸相に於て都市と密接な交渉を有つ様な處は、事實准都市であつて、農村と云ふ譯には行かない。それで茲に農村と云ふのは全然農業に立脚し、交通が不便で都市生活の影響の極少い處を指して居るものと限定して考へたい。

農村問題は多方面であるが、或は經濟を論じ或は娛樂を説く人はあつても、教育と云ふことが此問題を解決する鍵鑰であると云ふことについては、餘り多くの人が注意を拂はない様に思はれる。ところが農村の教育は都市の夫に比し多大に困難な事情が伏在し、骨を折つた割にその効果が舉らない場合が多い。その重なる事情を舉れば

六三

一、何等かの教育的施設をなし、一團の人々を集めるのに、都會の三千人よりは田舎の三百人の方は遙かに困難である。而して金は寧ろ多くこそかゝれ、少なくともならぬのであるから、一人宛の経費は非常に嵩む様になる。

二、交通が不便で事務を處理し、相當な規模を整へるのに非常に困難であり、生徒が集るにも亦同様多大の面倒がある。

三、教師を派遣する上に様々困難な事情がある。優良な教師を派すことは己に困難であり、旅費等に要する経費は多大であり、宿舍の便を缺き、人操りの都合が付かないと云ふ様な事が多い。

四、クラスを組織するのに適當な建物が無い。

五、田舎の常として様々の意味に於て社會的紐帶を缺き、人々は互に孤立して生活しつゝある状態であるが爲に、斯の如き共同的な仕事は豫想外の困難がある。

大體右の様な事情の伏在するが爲めに、農村に於ける成人教育は遅々として進捗する

ころなかつたのも無理からぬ次第と云はなければならぬ。それに十九世紀の末年迄は地方當局亦成人教育運動に對して何等獎勵の手段に出せず、爲めに農村に於ける成人教育運動は更に發達の曙光を見出さなかつたのであるが、一九〇二年の教育法令の發布と共に事情一變し政府當局も地方當局も共に成人教育運動に對し相當な財政的援助を行ふ様になり、多少共面目を改め來つたところがないでもないが、著しく發展の機運を促進する様になつた直接の動機は歐洲の大戦争に在ると云へる。歐洲の大戦争に際して英國はその國力を賭して戦つたのであるが、流石は大英國で戦局の進捗に伴れ、事實に照らして自己批判を怠らず、將來更に偉大なる大英國を建設せんが爲めに、戦局の教ふるすべての教訓に顧みて、自國の改善に資するの用意を失はなかつた。斯くて改造委員會が設けられ、更に改造大臣の新設となり、様々の方面に涉つて改革の準備をしたのであるが、特に國民教育に着目して成人教育方面に對しても亦種々の研究を試みたことは曩に述べた通りである。斯くて農村の教育に對しても從來と異つた努力を

試みるこゝとなり、大戦後の成績は歴然として見る可きものがある様になつた。更に又大戦中獨逸潜航艇の封鎖に逢ひ、今更ながら農村の實力を培養して出来る限り自給の助となし、特に又一國元氣の醗酵所として之を大事に育む事の必要を痛感し、之が爲めには特に農村の婦人に教養を與へることの急務を識るに至つたことも亦注目し、値する。次には農村から出征した壯年者は廣く社會を見て來た結果、自己の生活に覺醒するところあり、様々な意味に於て自己を充實し、福祉ある生活を遂ぐる様希望する念慮が深くなり、斯くて農村成人教育が自發的に多大の進捗をなすべき機運に到達したものと看る可きである。以下農村成人教育上有力なる機關に就て簡単に述べよう。

一、W、E、Aの事業

W、E、Aは創立の當初から大學と提携し、勞働者に對し高級な教育を授けることを目的としたことは己に述べた通りである。斯くてW、E、Aの事業は、大商工業都市を主とする傾のあつたことは否むことが出来ない、ところが漸く地方にも其の力を頒つ様

になり。地方當局の補助を受け、或は協會自身の經費を以て田舎にも一ヶ年學級の施設を試みる様になり、これが又小都市には最適した施設として歓迎せられ。斯くて小都市から更に進んで農村へとW、E、Aの力が伸びる様になつて來た譯である。ところが斯る機運の起つた矢先に勃發したのは歐洲大戦争で、爲めにW、E、A自身が多大の影響を受け財政は不如意になる、地方當局は此方面の事業どころの沙汰ではないと云ふ様な譯で、一時其小都市乃至農村の成人教育事業は一頓挫に逢着したのであつたが、大戦争の終熄と共に機運が再動き、W、E、Aの地方成人教育運動も茲に鞏固な立場を得て、振興することになり、地方の中樞小都市には大學チュートリアル・クラス一ヶ年學級。小都會や農村には講演會、簡單なる學級、乃至研究會等の催が盛に行はるゝ様になつた。

二、N、F、W、I全國婦人團聯盟

農村振興の方法として、婦人の自覺に俟つところ多きは云ふ迄もなく、斯くの如き意味に於て一九一五年農村婦人團の設立を見るに至つたのであるが、一九一七年農務

省が力を入れて其發達に助成する策に出で、文部省亦之に協力することとなり、是にその全國的聯盟が形られて、全國婦人團聯盟 (National Federation of Women's Institutes) が組織された。

その目的は左記の如き計劃に基き農村生活の状態を改善せんとするに在る。曰く

- 一、家庭經濟の研究をなすこと
 - 二、教育、社交、並に地方的事業の中樞となること
 - 三、家庭の産業並に地方的産業の獎勵振興を計ること
 - 四、農村に於ける團體企業を發達せしめること
 - 五、農業に關する趣味を啓發涵養すること
- である。斯くて今や十四萬人の會員を包容し、二千三百九十餘の團體を算ふるに至つた(一九一九年調査)。

本聯盟の行ふ具體的な仕事として

- 一、毎週一回集會が催され、團員は少くとも一ヶ月一回は集會に出席する義務がある。
- 二、様々な教科が繼續的に行はれ、家事に關する科目、園藝、衛生、手細工等に關する講習乃至文學、經濟、社會問題、地方史、藝術、音樂、演劇等に關する人文的教科が行はれる。

特に注目すべきは展覽會の開催である。毎年一回團員の生産品を出陳して展覽會を催し、時にはそれを即賣もし、斯くて團員相互の知識を啓發し、その努力を獎勵するのである。一九二〇年には有名なサウス・ケンシントンのグイクトリア・エンド・アルバート博物館で同聯盟 N、F、W、I の展覽會の開催を許した程その國家的に如何に重大視せられつゝあるかが分る。

三、V、C、A (農村クラブ協會)

一九一八年六月、農業クラブ大會が開かれた際、會長サー・ヘンリー・リユー氏の

提案に基き、農村に於ける社會生活並に社會活動を促進發達せしむる件が議せられ委員會を設けて討議した末、左の如き趣意の下に創立されたのは農村クラブ協會 (Village Club Association) である。その第一回の總會の發した宣言を見れば詳細に且具體的に其の目的を了解することが出来る。曰く、

- 一、農村住民の新時代にふさはしき要望を満足させること、
- 二、農村に於ける實生活の内容外形を更に新しく、更に廣きものとし、その生活を快適ならしめること、
- 三、田園の生活が單調にして勞苦多きものと思ひ込み、徒らに不幸なる忍從生活を繰り返す弊を矯め、勞役以外に別に幸福なる人生のあり得べきことを徹底的に自覺せしめること、
- 四、合理的な娛樂、社交の精神の啓發を得る機會を與へること、
- 五、女子の社會上の地位、意義を新しき見地より認めること、

六、農村自治體は國家の社會的、政治的構成の根基たること昔も今も同様である。

然るに農村に於ける自治共同の美風が漸次衰亡しつゝある。故に益々此精神の弘恢及振興に努むること

又其方法としては

- 一、本協會を以て農村に於けるあらゆる社會的活動の中樞たらしめること
 - 二、本協會はその會員の自力に俟つて發達繁榮すべきもので、一切外部よりの援助恩恵を受容せざること
 - 三、階級の別や意見の相違等には頓着せず、出来るならば男女共農村の住民を擧げて悉くクラブの會員となること
 - 四、會員より選舉された委員會がクラブを統理すること
- を原則として居る。斯くて今や四百六十のクラブが之に加盟し(一九二二年四月)様々な教育的施設を試みつゝある状態である。

四、カーネギー財團圖書館

カーネギー財團の寄附に係る農村圖書館計劃が樹立せられ、爲めに教育上裨益せらるゝところ多大なるものがあつたのであるが、一九二二年一月には圖書館施設の實行されたもの二十二郡の多きに達し、漸次其計劃が全国的に進捗しつゝある。かく郡を單位として圖書館施設をする様になつたことは相當謂れのあることで、勿論出来る限り小區域を單位とし、如何なる個人も書籍に親しみ得る様にすることは極めて有効には相違ないが、彼の教區を單位として圖書館を設けると云ふことは、その範圍が餘りに小に過ぎて逆も實行の出来ないことであり、さればと云ふて數教區を一團としてこれを單位とすれば、各教區間の嫉妬反感を激成し、調和協力が行はれず、却て意外な禍を作る慮があるので管理上からも財政上からも、郡を單位として施設することが一番好いと云ふこととなり、漸次その計劃が進捗し、而もこれが不知不識の間に人心を啓發し、成人教育事業として聞えず又見えざる處に多大の功績を挙げつゝあることを

認めなければならぬ

以上挙げ來つたのは農村教育施設としての數事例に過ぎない。その他基督教青年會の事業や地方當局の施設等相當見るべきものも少くない。 (完)

協調會教務課發行

勞働者教育資料

- 勞働者教育の組織と經營 No. 1
- 成人勞働者教育の主張 No. 2
- 新成人勞働者教育論 No. 3
- 獨逸民衆大學の精神 No. 4
- 成人勞働者教育と輔導學級 No. 5
- 各國成人勞働者教育概況 No. 6
- 英國に於ける成人教育 No. 7

福利施設資料

- 勞働者教育及修養施設調査
- 本邦産業福利施設概要
- 産業福利施設概要
- 本邦工鑛業懇話會概要
- 新時代の工場監督者
- 工場鑛山圖書閱覽施設并教科書概況

大正十五年十月五日印刷
大正十五年十月十日發行

定價二拾錢

東京市芝區芝公園六號地

編輯兼發行者 惣田太郎吉

發行所 財團協調會

振替口座東京五三七〇四番

東京市芝區愛宕下町四丁目八番地

印刷者 光永長雄

印刷所 博文印刷所

東京市芝區愛宕下町四丁目八番地

電話銀座六一二九

393
758

290
46

NO.

PATENTED NO. 119016

"F-M"

PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851(菊倍)	30. cm. x	22.5cm. x	1cm.
852(四六倍)	26. „ x	18.5 „ x	1 „
853(菊)	22.5 „ x	15. „ x	1 „
854(四六)	18.5 „ x	12.5 „ x	1 „
855(特)	24. „ x	15. „ x	1 „

Special sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES IN ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.
OSAKA-TOKYO-FUKUOKA

終

